

専修大学教育学会第52回大会

教壇に立つ卒業生ら130人出席 秋山恵美子さん(OG)の講演も

専修大学教育学会(会長＝日高義博学長)の第52回大会が11月23日、神田キャンパスで開かれた。小・中・高校や大学で教壇に立つ卒業生と、将来教員を目指す学生ら約130人が出席し、活発な意見交換を行った。

午前中は「小学校」「国語科」「英語科」「地理歴史・公民・社会科」「商業・情報科」に分かれて分科会を開催し、研究発表と討議が行われた。午後からは学習塾を営みながら富士市でトルコとの交流活動を続ける秋山恵美子さん(昭51文)が「トルコと私」をテーマに講演。トルコと日本の教育制度の違いや、文化・風土について話し、ゲストとして招いたホイトゥル民族舞踊団の2人が、民族舞踊を披露した。

定期総会では会務報告と役員改選が行われ、5人の新会員を紹介した。

育友会全国支部長会

68支部から81人が参加



育友会の全国支部長会が11月13日、神田キャンパスで、全国68支部の支部役員ら81人が出席して開催された。

遠藤恵子副会長の司会、大瀬利行会長を議長に議事が進行し、(1)今年度の支部懇談会・就職懇談会の開催結果報告(2)来年度の支部懇談会開催計画(3)支部・本部の運営に関する要望—の3点を議題に、活発な意見交換がなされた。質疑応答では、会場からの質問に庄菊博育友会主任(法学部教授)らが丁寧に回答した。

支部役員らは、育友会奨励賞表彰式(5面に掲載)にも出席し、表彰学生を激励した。

校友会支部だより

29会総会

9月30日、千代田区の「帝国ホテル」で。本部2人、会員27人が出席。中村英司会長(商経)が司会。坂本伴治校友会副会長の祝辞の後、議事に移り会務を承認。卒業50周年を迎え、これまでの会員の社会活動を報告。懇親会は福引きで盛り上がった。

38会総会

10月9日、新宿区の「新宿ワシントンホテル」で。本部1人、大学2人、会員38人が出席。

内藤博氏(商経)が司会。越智好行代表幹事(商経)、三島英雄専修大学専務理事、坂本校友会副会長があいさつ。議事に移り、会務を承認。懇親会のアトラクションとして山下たみ子さん(商経)の健康ミニ講演が同期を元気づけた。

仙台支部総会

10月15日、仙台市の「仙台ワシントンホテル」で。本部1人、来賓3人、会員36人が出席。

今野四郎氏(昭45経済)が司会。毛利友昭支部長(昭39経済)があいさつ。議事に移り、会務を承認した。

伊豆大島支部総会

11月14日、大島町の「ホテル椿園」で。来賓6人、会員8人が出席。

清水豊典氏(昭55法)が司会。小坂満支部長(昭48経営)があいさつ。議事に移り、会務を承認した。

第32回森口メモリアルゴルフ

優勝は藤木宏康氏 中越地震被災地へ義援金

体育会関係者を中心に毎年行われている「森口メモリアルゴルフ大会」が11月11日、埼玉県の武蔵丘ゴルフコースで行われた。

32回目となる今大会には82人が参加。ハイレベルな戦いが繰り広げられた結果、藤木宏康氏が栄冠を勝ち取り、三島英雄専務理事から優勝旗が手渡された。ベストグロス賞は柔道部OBの水島和義氏(昭37商経)が獲得した。

なお、参加者から「新潟県中越地震被災地へ義援金を」との提案があり、集まった8万円は川崎市を通じて被災地へ寄付される。

専大校友を訪ねて

民主党衆議院議員

社会保険労務士

内山晃さん(昭51商)



5月の衆議院本会議で民主党無所属クラブを代表して代表演説を行い、進行中の年金の政府法案を厳しく追及した。「安心できる年金制度の抜本的改革は、政権が変わる以外に解決法はない。『国民のための年金』確立へ専門的立場から全力を尽くす」と力を込める。

92年、銀行が主催する年金相談会の講師を頼まれた。流山市で、主に中小企業を相手に社会保険労務士として活躍してきたが、その時は複雑な「年金」の質問に答えられなかった。訪れたのは定年を目前にした人々で、分かりにくい年金制度に疑問と不安を抱いていた。「年金が今後大きな関心事になる」と確信。同制度に関する知識を深め、数々の相談会をこなしてきた。少子高齢化の加速により、年金受給者の増加とそれを支える働く世代の減少……。年金制度の破綻が目に見えてきたことに危機感を抱き「鮮明で先見性ある政策が不可欠」と感じた。

そんな折の2000年衆議院議員総選挙。地元千葉7区の民主党立候補者が病気でリタイアしたためピンチヒッターで出馬することになった。当選まで1万8千票差と惜敗したことで手応えを感じ、投票日翌日から連日駅頭に立った。街の講演会で年金改革を訴える運動を地道に続け、03年の総選挙では「年金の内山」を強くアピール。新人4人が争った激戦区を制した。年金相談の来訪者は6000人に上り、選挙活動を支えてくれた。駅頭で「私も専大の卒業生」と名刺を手渡され、励まされたこともある。

専大松戸高から商学部に入學。パイロットになりたかったが、「ハイジャックされた時に役に立つのでは」と専大では空手部に入部。「運命が変わってしまった」と笑う。先輩や仲間との交流、夏合宿、さまざまなアルバイトなどを通じ、肉体面、精神面ともに鍛えられ、現在の糧となった。「信念を貫けば必ず道が開ける」。自らの指針を母校の若人にささげる。

校友の本

50代からの超健康革命 松田 麻美子著

ヘルスエドゥケーター、ヘルス&ニュートリション・コンサルタントとして日米両国で活躍中の松田麻美子さん(昭46文、米国在住)が、中高年のためのナチュラル・ハイジーン(健康を保ち、病気を予防するための原則の理論)実践書を上梓した。松田さんはこれまで『常識破りの超健康革命』、『子供たちは何を食えばいいのか』を刊行してきたが、今回の『50代からの超健康革命』は、中高年の皆さんが健康で幸せな第二の人生を過ごすための手引書となっている。心臓病やガンなどの成人病はなぜ起こるのか、健康になるためにすべきことは何なのか、病気知らずで長生きするにはどうすればよいのか……が本書で分かりやすく解説されている。最終章に「ナチュラル・ハイジーン式」食事プログラムとして、日本人向けのオリジナルレシピ(納豆入り山かけサラダ蕎麦、ぬかづけ野菜のレインボーサラダ、アズキ入り赤米ご飯など)も満載されている。

(グスコ出版・本体1800円+税)*

こんなに変わる！年金改正重要ポイント 内山 晃著＝「校友を訪ねて」参照

5年に1度、大きな見直しが行われる年金制度。今年6月5日、与党の強行採決により成立した年金改正制度は、国民の期待とはほど遠い内容であり、一段と分かりにくくなった。若者から老人まで、決して他人ごとではない「年金」。社会保険労務士として、『年金相談』に長く携わり、一般市民の目線から問題点を研究してきた著者が、今回の改正ポイントを実務家向けに解説したのが本書。「在職老齢年金の見直し」「離婚時の厚生年金分割制度の導入」などが、分かりやすい目次で配列されており、読みやすく工夫されている。

少子高齢化が止まらない中、細る財源をいかにベストな仕組みにするか。「誰もが分かりやすいシンプルな制度・あるべき制度への改正をめざし、政治家と実務家の両方の目線で努力を重ねていきたい」と著者は語っている。

(日本法令・本体1600円+税)

【ニュース専修2004年12月号9面】